

アグリランド

# とっぴ

BIZEN WAKE AKAIWA



2022  
年度号

岡山県備前県民局農林水産事業部  
東備農業普及指導センター



# 目 次



もも産地の発展を支援します！

～白桃の担い手確保・育成と産地拡大～	1～2
新規就農者確保に向けた活動	3
被覆肥料のプラスチック被膜殻の流出防止に注意しましょう	4
水田農業研修会を開催	5
農作業安全について考えてみてください	5
夏秋なすの産地振興	6
いちごの花芽検鏡技術の普及	6
ぶどう若手生産者への支援	7
シャインマスカットの高品質生産を目指して	7
研修会、専門家派遣等で経営支援	8
6次産業化の取組を応援します	9
しきみの管理を楽に～低木仕立ての推進～	10
乳酸菌添加で良質自給飼料生産	10
肥料・燃油価格上昇対策技術	11
各種表彰・受賞者の紹介 ～皆さん おめでとうございます～	12



# もも産地の発展を支援します！

## ～白桃の担い手確保・育成と産地拡大～

J A晴れの国岡山岡山山東もも部会は、赤磐市山陽・赤坂、岡山市東区瀬戸の3産地で形成され、栽培面積は県下有数の規模ですが、新規就農者の確保、就農初期者の早期経営安定、安定生産技術の普及、産地規模の拡大、個別経営体の経営安定といった課題解決が求められています。ここでは、普及指導センターが関係機関と連携して取り組んでいる課題の一部について御紹介します。

### ○初心者講座の開催

通常のパベラン生産者向けの栽培講習会の内容を、より細かく説明する栽培初心者向けの講座を新たに開催しました。また、講座の未開催時期には、クラウド（インターネット上の文書ファイル置き場）を活用してスマホ等から生育状況、気象条件や病害虫発生状況に即した栽培管理方法や注意点等情報がいつでも入手できるようにしました。



もも初心者講座

### ○主要品種の生産安定

清水白桃では、硬核期前の5月中旬から収穫期に土壌水分変動を軽減することで生理的落果の抑制や糖度向上につなげる、透湿性シート部分マルチ実証を行いました。



「清水白桃」透湿性シートマルチ実証



白皇研修会

今年は落果が少なくまた、品質が良い年だったため、マルチの効果は大きく発揮はできませんでしたが、無処理と比べて核割れ率は低くなり、糖度は同等か若干高くなる傾向でした。

また、部会では出荷が一時停滞する8月中～下旬に成熟する岡山県育成の「白皇」の導入を進めていますが、果実表面の裂皮・裂果や縫合線の裂果といった障害の発生が問題と

なっています。このため、予備摘果時期や収穫出荷前に研修会を開催し、障害発生軽減や適期収穫に向けた意識統一を図りました。また、昨年度は生産者アンケートを実施して、障害発生が少ない園地条件の傾向（水持ちが良い水田転換園、草生管理）がつかめたことから、今年度は確認のため園地追跡調査（優良事例調査）をしました。今年度は縫合線裂果の発生が比較的少ない年でしたが、調査園では今年度も発生率が少ない傾向であることが確かめられました。縫合線裂果については、発生軽減に向け、引き続き調査を行う予定です。

### ○カラス被害対策

近年、カラスによるももへの被害が問題となっています。そこで、昨年度被害が多発したもも園に、農研機構が開発した、「くぐれんテグスちゃん」の簡易型を設置しました。これは、園地をはさんで一定間隔に配置した柔らかい支柱の先端部に釣り糸をつなげ、釣り糸が樹上で不規則に動くことでカラスを近づけなくするものです。今年度は被害の発生は無く、被害軽減効果を確認できました。



くぐれんテグスちゃん(テグス加筆)

### ○産地規模の拡大

白桃の魅力が首都圏をはじめ全国的に徐々に認知され、供給力をさらに強化する必要があることから、県下各地で既存の事業を使い、関係機関、生産組織と力を合わせて新団地を整備しています。

東備地域では、地元の協力が得られた赤磐市斗有地区をモデルとし、比較的投資が少なく、かつ早期に営農が開始できるよう、耕作予定者が簡易なほ場整備を実施する方式を採用しました。普及指導センターは事業推進メンバーとして、水利・用排水等現地調査、地権者と担い手のマッチング会議、植栽・ほ場整備計画策定などに取り組みました。

今後、3月の苗木定植から栽培技術指導を開始します。



地権者と担い手のマッチング会議



各担い手による植栽・ほ場整備計画説明



# 新規就農者確保に向けた活動

東備地域では、各市町において、ぶどう、もも、なす、軟弱野菜の4品目、8つの産地が就農研修の受入産地となっています。普及指導センターは、就農オリエンテーションを6月22日（前期）と10月19日（後期）の2回開催し、合計で12組13人の就農希望者を産地見学を行いました。そのうち、前期の1人（ぶどう希望）が農業体験研修（農家の下での1か月間の研修）を経て農業実務研修（農家の下で栽培技術の習得、農地や住宅の確保、地域との絆づくりを進めるための最長2年間の研修）に進みました。



就農オリエンテーション(後期)現地案内



関係者が集まった農業体験研修開始式

東備地域は岡山県の南東に位置し、関西や関東から見て県内他地域より距離が近く、この地域からの就農相談や就農者が多く人気があります。そのため東京や大阪などで積極的に就農相談活動を行いました。10月23日、東京で開催された、新・農業人フェアに相談ブースを設け、ももの生産者、農協、普及指導センターが産地のPRを行いました。当地域で秋に収穫できるももを展示して注目を集め、10人がブースを訪れました。



新・農業人フェアの出展ブース

また、大阪でも11月9日に開催されたナイター就農相談会で、ぶどうやももの産地PRや就農相談を行いました。

普及指導センターでは、このような活動を通じて新規就農者の確保に努めるとともに、就農前の研修、就農後の経営安定について支援していきます。

# 被覆肥料のプラスチック被膜殻の流出防止に注意しましょう

被覆肥料は、追肥の手間や散布する肥料の量を減らすことができるなどのメリットがあります。その一方、肥料の表面をプラスチック等で被覆しているため、水田から被膜殻が、河川等に流出すると、環境に影響をあたえる可能性があります。

次の対策で、水田からの肥料殻の流出を減らしましょう。

## ○畦畔管理

- ・あぜ塗りの徹底やあぜシートを設置する。
- ・止水板はあぜの高さ以上とする。

## ○代かき・田植え

- ・入水時までには田面の高低差をなくす。
- ・代かきは浅水で行う。
- ・田植え前の落水は行わず、自然落水で水位を調整する。

## ○水田外に出さないために

- ・排水口にネットを設置する。
- ・水田で浮上した被膜殻をすくい取る。

## ○施肥

- ・土壌診断や栽培歴等に基づいた適正施肥に努める。
- ・流し込み液肥、被膜殻の崩壊の早い肥料の活用なども検討する。
- ・施肥量の削減につながる側条施肥技術を導入する。



被覆にプラスチックを使用しない（または、被覆のプラスチック使用量を減じた）肥料について普及指導センターでの実証結果は、慣行肥料とほぼ同等の収量・品質となっています。

## ●ひとめぼれ（赤磐市黒本）

	精玄米収量 (kg/10a)	整粒歩合 (%)	食味値 (サタケ)
慣行肥料	536	67.7	79
硫黄で被覆した肥料	575	66.1	77

## ●きぬむすめ（赤磐市可真下）

	精玄米収量 (kg/10a)	整粒歩合 (%)	食味値 (サタケ)
慣行肥料	559	83.6	74
硫黄で被覆した肥料	517	82.7	71

## ●朝日（赤磐市立川）

	精玄米収量 (kg/10a)	整粒歩合 (%)	食味値 (サタケ)
慣行肥料	539	80.0	79
プラスチック肥料殻を減らした肥料	532	63.1	79



# 水田農業研修会を開催

今年も東備地域水田農業研修会を開催しました。この研修会は、水稻経営を主体とする認定農業者や集落営農組織関係者を対象に、先進技術の導入で省力的なほ場管理を図り、水田農業の維持・発展を目的にしたものです。最初に鶏ふんによる施肥コスト低減実証ほ場と水管理の省力化を図るための水位計について、普及指導センター職員が現地ほ場からリモートで生育や病害虫の発生状況を中継した後、農林水産総合センター普及推進課から土壌診断に基づく施肥や鶏ふん・緑肥の活用等による施肥コスト低減等、ベジタリア株式会社からスマート栽培暦による栽培技術の活用方法を説明しました。

普及指導センターでは、今後も研修会等を通じて、水田農業に役立つ情報を提供していきます。



リモート中継したほ場と水位計

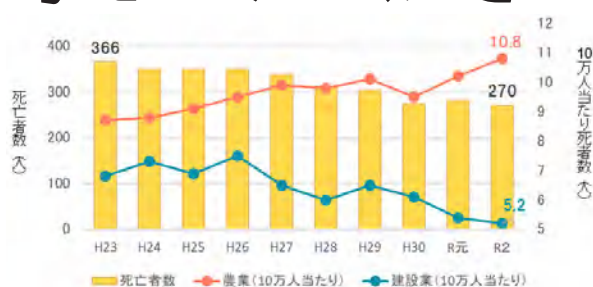


施肥コスト低減やスマート栽培暦の研修

## 農作業安全について考えてみてください

農作業事故が他産業より高い割合で発生していますが、対策をすることで防ぐことができます。

農作業事故を防止することで、農業経営の安定継続につなげましょう。



(出典) 統計データ等を用いて農林水産省が整理

### 【農作業安全のポイント】

- ・安全キャブ・フレームのあるトラクターを使用し、シートベルト・ヘルメットの着用を徹底する。
- ・作業環境を確認し、危険性に配慮する。
- ・熱中症など、季節の変わり目は体調管理に気をつける。



農作業安全研修会

# 夏秋なすの産地振興

東備地域は古くから夏秋なすの産地で、面積、出荷量とも県内の3割を超えるシェアがあります。なすは水田でも栽培が可能で、果菜類の中では初期投資が比較的少ないという長所があり、生産部会と関係機関が協力して面積拡大、高品質・省力栽培を進めています。

具体的には、①3つの生産組織別の講習会、②広域の研修会、③就農準備講座、④新規栽培見学会、⑤インターネットを利用した技術情報配信・精農家管理動画の共有等を行っています。新たに栽培を希望する方には個別相談を承りますので、御連絡をいただければ概要説明から営農計画づくりまでサポートします。



広域研修会で生産部会を超えた情報交換



こまめな枝管理が多収のコツ

## いちごの花芽検鏡技術の普及

検鏡は、いちご苗が花芽を作ったか否かを顕微鏡で確認し、適期に定植することで収量を向上させる重要な技術の一つです。この技術を習得したい意欲のある生産部会に対して、普及指導センターは初めて検鏡技術研修会を開催しました。

顕微鏡を覗きながら裁縫針を操る繊細な技術のため、コツを口頭では伝えづらいことから、粘土を使った模型を作成し、手や針の動かし方を説明するなど工夫しました。



模型を使い、手元の細やかな動きを指導



研修会に用いた模型



# ぶどう若手生産者への支援

東備地域は、毎年5名程度のぶどうの新規就農者が参入する一方、現在の主要な担い手は60代後半から70代以上と高齢化が進み、若手生産者への技術継承と今後の産地を牽引する産地リーダーの育成が求められています。

今年度は、若手生産者への個別対応に加え、産地を越えた若手生産者の交流や技術向上を目的に、農業研究所を会場とした若手研究会や、関係機関が連携してぶどう産地づくりを進めている吉備中央町で先進地視察研修会を開催しました。また、クラウドやSNSを活用し、先進農家の房づくり動画を配信するなどタイムリーな情報提供を行いました。

東備地域の6つのぶどう生産組織のうち、2組織で産地リーダー（部会長、組合長）が40代以下で、今後は急速に世代交代が進むと予測しています。今後も関係機関と連携して若手生産者を重点的に指導し、ぶどう産地の継続した発展を支援します。



視察研修会で組織を超えた情報交換



先進農家の房づくり動画を撮影しSNSで配信

## シャインマスカットの高品質生産を目指して

全国的にシャインマスカットの生産量が増加する中、産地が生き残るためには高品質ぶどうを安定して出荷し、産地のブランド力を高める必要があります。そこで、現地の栽培上の課題を明確化するため、栽培実態調査を実施しました。

その結果、生育後期に樹勢が強すぎる樹では、副梢管理に手間がかかることに加え、果実と新梢が養分競合を起こし果実肥大や糖度が劣るなど、現地の課題が明確になりつつあります。今後も関係機関と連携し、樹勢が強すぎる生産者の施肥基準や新梢管理を改善するなど継続して取り組みます。



品質低下の要因の一つは「養分競合」



実態調査で栽培上の課題を明確化

# 研修会、専門家派遣等で経営支援

普及指導センターは、毎年、認定農業者等を対象に、経営管理、税務等を学ぶステップアップ研修会を開催しています。また、岡山県が本年度から設置した岡山県農業経営・就農支援センターとも連携して、農業経営支援アンケートの実施、経営研修会、個別経営相談、専門家派遣により経営改善を支援しています。

## 【普及指導センター主催の研修会等】

認定農業者等の経営改善支援として、岡山県農業経営・就農支援センターの専門家と協力して、各種研修会を開催しています。法人化や経営継承等について、具体的に専門家の支援を希望される方は、普及指導センターへご相談ください。

### <今年度の研修会>

研修会	実施日
雇用管理、女性労働力の活用	11月16日
青色申告と税金	11月25日、1月13日
複式簿記の基礎学習	12月9日、1月20日
パソコンでの複式簿記記帳	12月16日
簿記記帳相談(東備地域事務所)	1月16日、2月20日



雇用管理研修会

## 【岡山県農業経営・就農支援センターの専門家派遣】

○農業の法人化(中小企業診断士、税理士、社会保険労務士、司法書士等)

☆今の経営内容で法人化すべきか? どれくらいの規模になったら考えるか?

メリットは何か?

→ 経営診断を行い、就労面や販売面等経営全体を見て、法人化がメリットになるかアドバイスします。

☆法人化の手続きは?

→ 法人化の手続きから法人化後の労務管理、税務について、必要に応じてアドバイスします。

○経営継承(中小企業診断士、税理士等)

☆子供に経営継承を考えているが、何から準備すれば良いか? 継承のタイミングは?

→ 資産の継承や税務上の手続きなど、経営状況を確認しながらアドバイスします。



専門家による経営相談

※その他、「経営診断・経営改善(中小企業診断士等)」「雇用・労務(社会保険労務士等)」「税務・財産(税理士等)」など、それぞれの課題に対して専門家がアドバイスします。



# 6次産業化の取組を応援します

普及指導センターでは、6次産業化に取り組もうとしている農業者や、販路拡大を目指している農業者を支援するため、研修会や、関係機関との情報交換会を開催しています。

## 【備前地域6次産業化研修会】

広く農業者に参加を呼びかけ、初心者向け、実践者向けの研修会をそれぞれ2回開催しました。

初心者向けの研修会では、6次産業化の基礎知識と心構えや加工食品製造の基礎についての講義と、ぶどうとももを使ったゼリーの加工実習を行いました。

実践者向けの研修会では、オンラインでの販売促進に活用できるITツールや、オンライン商談の基礎、インボイス制度について、専門家を招いて講義を行いました。

参加者は、それぞれの研修で、メモをとったり、講師に質問をしたりと熱心に受講しており関心の高さが見受けられました。研修後のアンケートでは、「品質の安定した加工品を作るためには、糖度やpHの測定が大切なことがわかった。」「ネット販売やSNS活用についてはハードルが高いと感じていたが、できることから始めてみようと思う」といった感想が聞かれました。



加工実習に取り組む受講生



講義の様子



意見交換する参加者

## 【6次産業化連携会議】

6次産業化に取り組む農業者の情報を関係機関で共有し、支援の方法を検討するために、各市町で「6次産業化連携会議」を開催しました。

参加者からは、それぞれの市町にある地域資源をどのように活かしていくか、また、地域での課題についての情報提供があり、ざっくばらんな意見交換が行われました。

普及指導センターでは、今後も6次産業化に取り組む農業者について、関係機関と連携しながら支援を続けていきます。

# しきみの管理を楽に ～低木仕立ての推進～

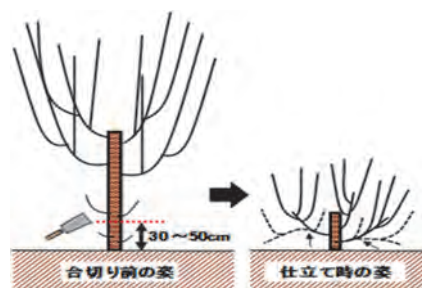
しきみは、物日（盆や彼岸、年末年始）を中心に、年間を通じて安定した需要があり、東備地域では古くから山間部の保全も兼ねて中山間地の山林中で広く栽培されています。しかし、その多くが傾斜地に植栽されているため管理が難しく、高木化することで作業効率が悪くなっています。

そこで、東備地域では平坦地に新規に苗を定植する低木仕立て栽培や、高木となった株を切り戻す低木への再生栽培を推進しています。今年度も実際の栽培ほ場での情報交換や実際に台切り作業を行うなど、技術の習得に向けた研修会を開催しました。

しきみの低木仕立てに取り組んでみませんか？



研修会



低木仕立て方法

## 乳酸菌添加で良質自給飼料生産

東備地域の畜産農家は自給飼料の生産に意欲的に取り組んでいます。

昨年度は、東備地域の畜産農家1戸において、スーダングラスとイタリアンライグラスの2毛作実証展示栽培を行いました。本年度も同じ畜産農家で、スーダングラスサイレージに乳酸菌を添加し、より高品質な自給飼料を生産する実証展示事業に取り組みました。

昨秋は種したイタリアンライグラスの刈り取りを5月上旬頃に行い、収穫後堆肥散布（3t/10a）を実施し、耕起後昨年度の実証展示事業で収量などに優れていた早生と極早生の品種（スプリット・ヘイス・ダソ）をは種して栽培・収穫の展示を行いました。

これからサイレージの成分分析等を実施するとともに、開封後の牛の嗜好性なども見ながら内容を検討し、結果が判明したら、地域の畜産農家の集まりなどで発表して役立つ予定です。

東備地域の畜産農家もウクライナ情勢等による飼料高騰対策として、自給飼料増産に取り組んでおり、今後も足腰の強い畜産経営実践のため自給飼料等の実証展示などを強力に推進する予定です。



乳酸菌添加作業



収穫作業  
(スーダングラス2番草)



# 肥料・燃油価格上昇対策技術

世界情勢を取り巻く不安定な環境の中で化学肥料原料の国際価格が上昇しています。

また、コロナ禍からの世界経済の回復に伴う原油の需要増や一部産油国の生産停滞などによる原油価格上昇を受け、国内の石油製品価格は13年ぶりの高値水準に達しています。

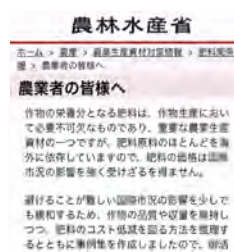
これらの問題の対策技術の導入や施設園芸等における管理を見直す参考になるよう、各種資料のリンクを次に掲げましたので御活用ください。

なお、スマートフォン・タブレットからは下記QRコードで、パソコンからは東備農業普及指導センターホームページ【<https://www.pref.okayama.jp/soshiki/89/>】から御覧ください。

## 1 肥料及び燃油価格高騰に係る対策技術 (県農林水産総合センター)



## 2 肥料のコスト低減 (農林水産省)



## 3 施設園芸省エネルギー生産管理マニュアル (農林水産省)



## 4 省エネ設備で施設園芸の収益向上を (農林水産省)



※複数のQRコードがスマートフォン画面上でかぶる場合は、

お手数ですが上・下のQRコードを隠してスキャンしてください。

※「QRコード」は株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

# 各種表彰・受賞者の紹介

～皆さん おめでとうございます～

※敬称は略させていただいております

## (第 52 回) 日本農業賞岡山県代表表彰・個別経営の部 株式会社穂々笑ファーム (赤磐市)

堀内由希子代表取締役は平成 21 年に農業へ新規参入し、徐々に経営を発展させ平成 30 年に法人化しました。赤坂地区を中心に水稻、加工・業務用野菜の栽培に取り組み、水稻の作業受託をとおして地域農家の営農継続にも尽力されています。また、グローバルGAP (雄町米)、女性が働きやすい職場環境づくり、地域の環境保全、食育に取り組んでいます。



堀内代表 (中央)

## (第 54 回) 中国四国地域若い農業者のつどい最優秀賞 本郷祐希 (東備地方新農業経営者クラブ連絡協議会) (赤磐市)

黒紫系ぶどうの端境期である盆前出荷を実現させるため、新農業経営者クラブで研究を重ね、露地オーロラブラックの被覆方法を工夫することで早期出荷させる技術開発が高く評価されました。



## 令和 4 年度岡山県うまいくだもの共進会(ピオーネ・オーロラブラック共進会)

### 【ピオーネの部】

- 岡山県知事賞 横山 直紀(備前市)
- 全農岡山県本部運営委員長賞 田村 敏浩(赤磐市)
- うまいくだものづくり推進本部長賞  
[優秀賞]久延 要(赤磐市)  
[奨励賞]木下 雅晴(赤磐市)、苅田 護(赤磐市)

### 【オーロラブラックの部】

- うまいくだものづくり推進本部長賞  
[奨励賞]齊藤 康之(赤磐市)



田村 敏浩氏 (右)  
木下 雅晴氏 (左)



横山 直紀氏



齊藤 康之氏





## 岡山県備前県民局農林水産事業部

### 東備農業普及指導センター

〒709-0492

岡山県和気郡和気町和気487-2（備前県民局東備地域事務所2F）

担い手・農産班 TEL 0869-92-5176

（米麦などの穀類、担い手育成、集落営農についてはこちらへ）

園芸班 TEL 0869-92-5177

（果樹、野菜についてはこちらへ）

FAX 0869-92-0524

E-mail tobi-fukyu@pref.okayama.lg.jp

### 備前広域農業普及指導センター

〒700-8604

岡山市北区弓之町6-1（備前県民局3F）

革新農業推進班 TEL 086-233-9845

（花き、6次産業化、農業経営や制度資金についてはこちらへ）

FAX 086-224-1187

E-mail oka-fukyu@pref.okayama.lg.jp

### 農畜産物生産課

〒700-8604

岡山市北区弓之町6-1（備前県民局3F）

畜産班 TEL 086-233-9828

（畜産についてはこちらへ）

FAX 086-232-5532